



県政この1年

いろいろなことがありました

台風15号が県内を縦断、各地に大きなツメ跡を残しました（8月）

昭和56年は大雪のスタート。この1年は、三陸鉄道の廃止決定や、代わって鉄道運営に当たる第三セクターの会社設立などと大揺れとなりました。

8月には台風15号が県土を襲い、昭和22年のアイオン台風以上の猛威を振るいました。暗いニュースが続く中、東北新幹線が来年6月開業決定と発表され、岩泉町で発見された骨は、1億年前に陸上に生息した20センチ以上の大恐竜と報道されるなど、明るい話題もありました。

この1年を振り返り、新しい年への飛躍の糧としたい…。そんな願いを込めながら。

1月 日本一誕生が二つ。初の日本一となったのは、河川のサケ水揚げ量で、宮古の津軽石川が1月末で24万匹を超え、シーズン終了時には26万匹。釧路川の16万匹を圧倒しました。

一方の日本一は、新日鉄釜石ラグビーチーム。成人の日の15日、大学の覇者同志社を鉄の守りで一蹴、ラグビー史上初めて3年連続日本一に輝き、県民を喜ばせました。22日、初の県青年の船が、沖縄県、東南アジアに向け16日間の航海に旅立ちました。

わが国初の熱水づくりは、雫石町の葛根田で開始。12日には116

度の熱水づくりに成功しました。

2月 雪が降り全国各地に大雪の被害も出はじめました。

56年度の県予算は、当初予算として初めて4,000億円を超しましたが、前年の伸び率ではこれまで最低の6.8%にとどまり、苦しい台所となりました。

17日田老大规模年金保養基地の建設協議会が発足。25日には、特定地方交通線の廃止基準を定める政令案が発表され、第三セクター論議が一段と高まりました。

3月 2日、国鉄赤字ローカル線廃止問題を審議する関係閣僚会議が開かれ、①久慈・宮古・盛の三線を

58年度までに②岩泉線を60年度までにそれぞれ廃止することを決めたため、関係者を不安に陥れました。14日には関係市町村長と県が話し合い、この席上知事は「県と市町村が応分の負担をすれば第三セクターも可能」と語り、廃止されないための方策を検討しました。

県観光推進実行委員会が、東京と横浜で「岩手の夕べ」を開催し、観光PRしたのが11日と12日。東北自動車道八戸線の一戸町内9キロ部分の用地交渉がまとまり、15日に地権者と調印、青森県境までの本県分27.6キロが妥結しました。

4月 県の機構改革で、バスや鉄道等の交通問題に対処する総合交通対策室と、地熱や大規模電源立地の調査などに充てるエネルギー水資源課を新設、当面する県政課題を担当することになりました。

盛岡駅前新しい顔は、旭橋（7日渡り初め）と、盛岡ターミナルビル（10日落成式）。県立農業短期大学校は、農業の中核的指導者を

▼青年の船が釜石港を出航（1月）



養成するため金ヶ崎町六原に新発足、14日開校式を行いました。

21日にアメリカからうれしいニュース。ボストンマラソンで、男子

の瀬古利彦選手が優勝、女子の佐々木七恵選手（盛岡一高教諭）が日本最高記録2時間40分46秒で13位に入る健闘ぶりをみせました。

県南青少年の家金ヶ崎町にオープン

5月、八幡平東部の地熱開発を進める現地事務所が、松尾村に店開き、8日のこと。高冷地開発センターが、機能を充実させて再スタートしたのが15日。高冷地やヤマセ（偏東風）地帯の農業振興を図るため、試験研究や技術開発などを一層充実していこうとしたものです。田植えシーズンというのに、天候が不順で苗の生育停滞が心配された月にもなりました。

国際障害者年を記念した県集会は、18日盛岡市で開かれ、1,300人が意見交換。20日には盛岡駅に北東北観光センターがオープンしました。

宮城県で開かれていた国際津波シンポジウムは、28日から本県

に会場を移し、湾口防波堤や防災施設を見学、世界各国から集まった90人の学者の目をみはらせました。

6月 5月からの異常低温と日照不足は、農作物に深刻な影響を与え、昨年に引き続き冷害の心配も出はじめました。

東京では2日、東北新幹線の東京始発を早く—と1,600人が参加して総決起大会を開催。早池峰山国定公園指定の話題が出たのもこのころのことです。

58年春の花巻空港ジェット化に備えたターミナルビル株式会社が創立されたのが8日。国鉄が廃止対象とした久慈線など三線の廃止通知が来たのが10日のこと。

昭和56年 県勢ビッグテン (1981)

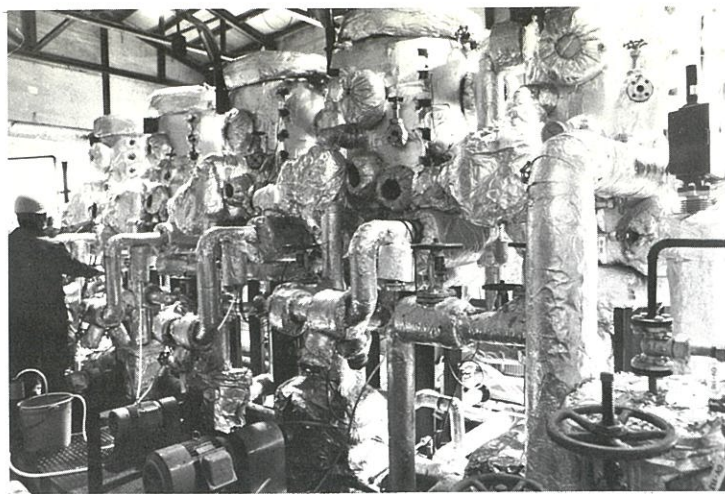
- 1 長年の悲願三陸縦貫鉄道を地元の手で実現させる第三セクター「三陸鉄道株式会社」の設立
- 2 東北新幹線57年6月開業決定、花巻空港ビル建設着手、主要地方道の国道昇格、高速交通関連道路の整備も一段と進み、新時代への対応着々
- 3 2年続きの異常低温と台風15号による被害甚大、農作物対策や災害復旧に全力
- 4 あすの岩手の夢を乗せて県青年の船初出航、県南青少年の家オープン、さらに県北青少年の家（仮称）建設も決まり、青少年対策大きく進展
- 5 柏崎克彦・日蔭暢年両選手柔道の国際大会で金メダル、新日鉄釜石ラグビー三年連続日本一、佐々木七恵選手ボストンマラソンで日本女子最高記録、スポーツ岩手の気を吐く
- 6 北上川五大ダムのとう尾を飾って御所ダム完成、県営初の多目的ダム綱取ダムもたん水を始め、治水に威力
- 7 農業の担い手を養成する県立農業短期大学校装いも新たに発足、高冷地開発センターの充実など「新しいわて農業」の確立を目指して前進
- 8 救急医療情報システム完成、救急患者の搬送が迅速化、県立病院の整備も進み、県民医療さらに充実
- 9 陸中海岸観光・レクリエーションの核となる田老大规模年金保養基地60年開業に向け始動
- 10 河川のサケ水揚げで宮古の津軽石川が日本一、育てる漁業の成果上がる

大船渡市にある県栽培漁業センターからは、12日アワビ12万個を初出荷したというニュースもありました。交通やエネルギー開発などについて県民の声を求める二つの懇話会が、初会合を開いたのが18日。北の又発電所（松尾村）の起工式は20日です。

7月 県南青少年の家が金ヶ崎町に完成、4日に開所式が行われました。青少年活動の拠点として大きな成果を挙げています。

大蔵省は、59年秋から1,000円札以上のお札の“顔”を全面改定すると発表。5,000円札に本県の偉人、新渡戸稲造博士（国際平和の実現に努力）の人物像を使用することに決まりました。10日には、岩持静麻全国農協中央会長就任のニュースも。全国470万農家を率いることになりました。

真夏の空で日食が見られたのが31日。このころの天候はすっかり回復し、7月の真夏日は盛岡で9回。冷夏の不安は一掃されたと思った



のですが……

8月 岩手ビッグカーニバルが、小岩井農場で1日から5日間。詩情ゆたかな岩手路を売り出すためミス新幹線コンテストなども開きました。

宮古市で8日「ふるさとの自然に親しむ県民のつどい」を開催、**ビッグニュースが集中**

台風、恐竜、東北新幹線、世界柔道

20日岩泉町で、3年前に発見された骨が、1億年前の大恐竜というニュースは、県民に大きな驚きを与えました。

同日、東北新幹線の開業を来年6月下旬とすることを国鉄が発表。大宮・盛岡間を1日4往復の「ひかり」型の電車が疾走することになり、待ちに待った新幹線の開業だけに県内では一応ホッとした声も聞かれました。

滝沢村が、ラジオメディカル総合センター建設の候補地として浮上し、賛否をめぐり議論が続きました。

800人が参加して浄土ヶ浜のクリーン作戦や自然観察、キャンプなどにぎやかに展開しました。50年ぶりに故郷の土を踏んだのが、南米からの里帰りのお年寄り15人。10日に中村知事を訪問し、郷土の変容ぶりや、移住地での生活の様子などを語り合っていました。

そして23日、台風15号が本県を直撃、陸に海に暴風雨被害をもたらしました。道路がえぐれ、屋根が飛び、田畑が水没するなどツメ跡が大きく、県は同日災害対策本部を県庁内に設置し、被害の把握と災害復旧に全力をあげることとしました。

9月 台風15号の被害は広がるばかりで最終的には831億6,800万円にも達しました。農作物に322億4,700万円、土木施設に287億2,200万円。このため、14日災害復旧について集中審議する臨時県議会を招

わが国で初めて116度の地熱熱水づくりに成功(1月・左上)

創立総会であいさつする中村直社長(11月・上)

盛岡駅前の新しい顔旭橋(4月・左)

集、補正予算65億円も可決しました。

オランダで開かれていた世界柔道選手権で、久慈市出身の柏崎克彦五段が初優勝。日本に二つ目の金メダルをもたらしました。原子力発電など大規模電源立地の論議が出たのもこのころ。

18日県社会福祉協議会は、創立30周年記念大会を開催、これまでの歩みをふり返り、より充実した福祉社会の建設を誓い合いました。

三陸鉄道の関係市町村議会は、相次いで第三セクターへの出資を議決、会社設立への体制がためが着々と進行了しました。

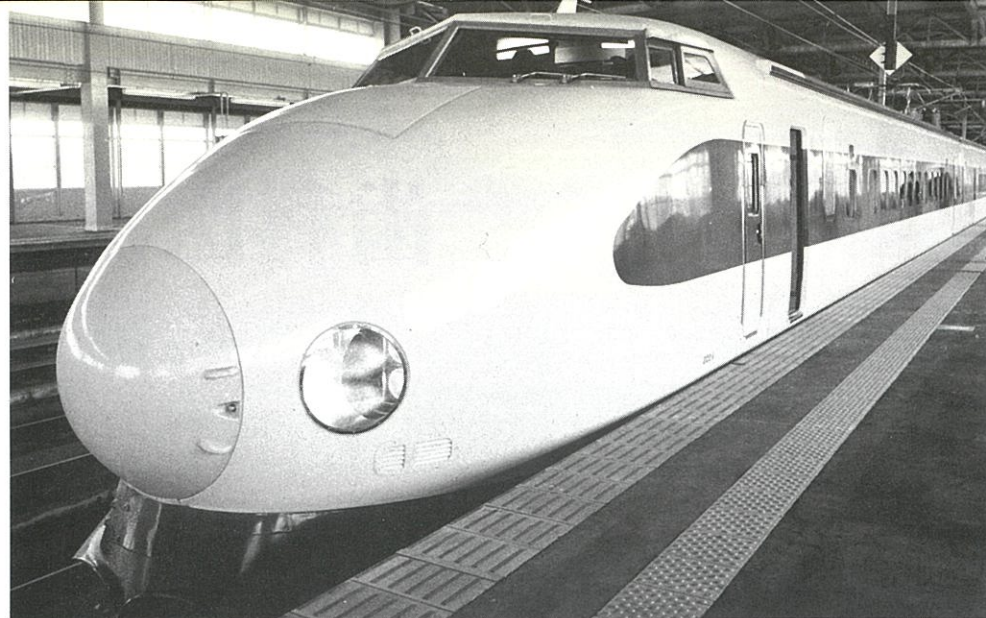
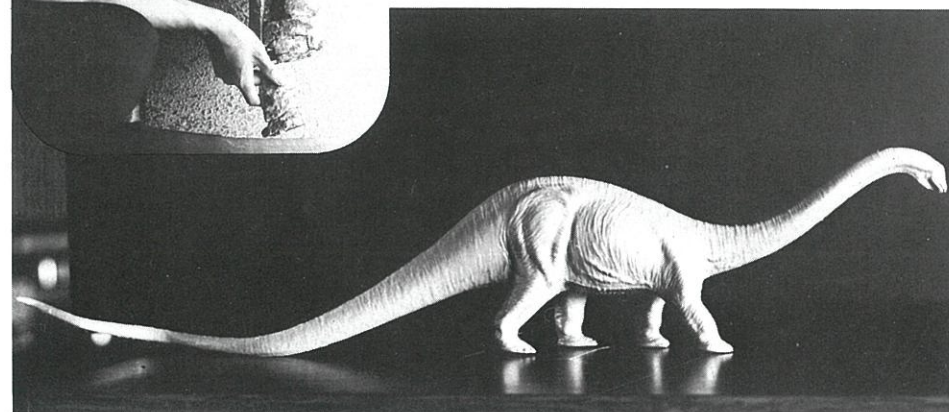
言葉の不自由な人たちの案内に当たる職員に、手話を学ばせるための講習会が28日から3日間盛岡市で。県や市町村の福祉担当職員50人が受講しました。

10月 全国の農業高校生6,000人が集まって、日本学校農業クラブ全国大会を6日から3日間開催。

9月末から始まった県議会は、9

近い未来と遠い過去

来年6月開業が決まった東北新幹線(右)、1億年前に陸上に住んでいたと思われる恐竜と発見された肢骨の複製品(8月)



▼岩手ビッグカーニバルで決まったミス新幹線と準ミス新幹線(8月)



日に三陸鉄道への県出資金1億4,500万円を可決しました。そして19日、設立発起人会を開き、中村知事を代表とする三陸鉄道株式会社を設立することなどを決め、県や市町村、民間などが共同で運営するいわゆる第三セクターが始動したことになります。

22日には、大規模電源立地の可能性について適地調査を行うよう委託、正式に契約しました。安代

期待一身に集めて

三陸鉄道株式会社を設立

11月 8月に県内を沸かせた大恐竜の肢骨のニュースは、3日の恐竜講演会で①20年前近い大型のものだったこと②発見地の名を取ってモシリユウと名付けること一などが明らかにされました。

4日は大安吉日。三陸鉄道株式会社創立総会を開きました。59年度開業に向けての全国第一号。10日には県庁内に事務所開きを、さっそく作業に入りました。

町の東北自動車道田山トンネルでは21日に貫通式を行い、青森線の県側工事に一層拍車がかかることになり、23日2年ぶりにいわて農業まつりを開催し「災害克服」への決意を新たにしました。

御所ダムの完工式は29日、東北新幹線を走る列車名の愛称を「やまびこ「あおば」と決め発表されたのもこのころです。

同日、企業局25周年の記念式典も行われ、御所発電所の完成や第二北上中部工業用水道の通水も祝いました。網取ダム(盛岡市)では4日から貯水が始まり、治水や市民の水がめとして58年度から本格的に稼働することになります。

久慈市に石油備蓄基地を建設するための調査を国が決定したのが5日。田老大規模年金保養基地の建設協議会を6日に開き、①60年

度完成②鉄筋コンクリート8階建てのホテル(300人収容)を中心とした保養地③50億円を投入などの基本計画を承認しました。

旧松尾鉱山鉱害防止のための工事は月末に完成。中和処理施設4基と貯泥ダムを建設しました。93億円を投入しています。

12月 58年のジェット化に備え拡張工事を進めている花巻空港では、新しいエプロン(乗降客や荷物の積み降ろしのために飛行機が停留する場所)が完成、1日から使用を開始されます。

また、救急患者を早く移送するための救急医療情報システムの完成はもうすぐ。救急患者のタライ回しを避け、消防署から病院と救急車に指令が飛び、すばやく移送するための設備です。

※ ※ ※
大雪で明け、台風被害で揺れ続けたこの一年。来年こそはもっといい年であるように……。